



1985・11

第 18 号

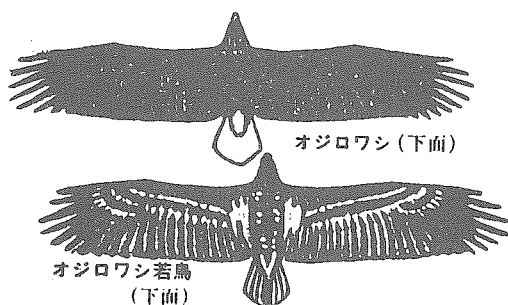
しろこぼと

日本野鳥の会 埼玉県支部



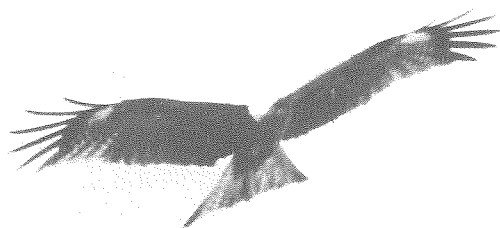
モズ(モズ科) キーキーキーという高鳴きが聞こえると、もう秋だなあ、と感じられる。テレビでも、秋のシーンでは必ず、効果音に使われているのを、鳥好きの人ならご存じだろう。ある冬の日のこと、シラコバトを観察していたとき、何か小さなものが視野に飛び込み、シラコバトにぶつかった。なんと、モズが襲いかかったのだった。小さな猛禽と呼ばれてはいるものの、その気の強さには、驚かされたものだ。(写真・長野博行、文・森本國夫)

大空を雄大に飛び巡るワシタカ類の魅力はいうまでもない。県内では、残念ながら、ワシ類の記録は僅小、特に昨年だったか、オジロワシが県南西部に出現したぐらいだ。そこで今回、県内で見ることのできる主な7種について、会員から、それぞれの種への“想い”を寄せてもらった。(写真・海老原美夫、カット・小学館刊『日本の野鳥』から)



ワシタカ類に想う

——トビ(タカの仲間)——



♂58.5 cm ♀68.5 cm

この鳥との最初の出会いは、私の故郷だった。瀬戸内の海べりで、家の外に出て、背

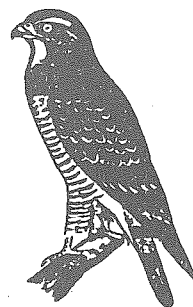
長野博行(北本市)

後が山、前面に大小の鳥々が浮かんでいる海を眺めていると、こつ然と現われては、ゆっくり輪を描いて上空で楽しんでいる光景がいつでも、見られるのだ。私にとって、海辺の鳥でしかなかった。が、野鳥の会に入っすぐのある日、桶川泉福寺の森の上空に出現した時には、奇異に思えた。荒川河川敷に面しているのできっと、餌場にちがいがなかった。

——サンバ(タカの仲間)——

松井昭吾(大宮市)

「タカの渡り」の主役は、サンバだ。夏鳥として渡来し、日本各地で繁殖したものが、10月上旬には、大挙して南下する。有名なのは、伊良湖岬と九州南端の佐多岬で、多い日には、数千羽が、次から次へと通過する。まさに壮観ノその姿は、実に優美。ただし、接近して見ると、眼光鋭い金目(きんめ)をし



♂♀49 cm

ており、猛禽の誇りと威厳を具えている。秋ともなると、私は早くも、伊良湖の空にあり、落着きを失ってしまう。



♂♀54 cm

——ノスリ(タカの仲間)——

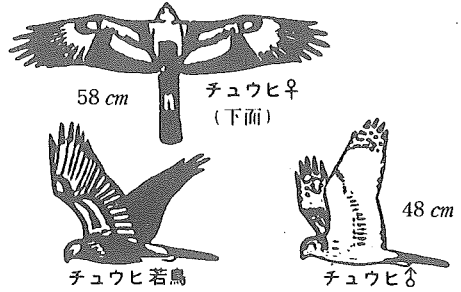
海老原美夫(浦和市)

早くもノスリと同じノスリだろうかと、ふと考える。県内を平野では、冬になると見る事ができる。かつてはマグソタカとかクソトビなどと失礼なよび方をされた事もある。それだけ普通に見られたという事だろう。扇形の尾、翼角の黒斑、腹の胴巻き模様などが特徴。バランスのとれた感じの、中型のタカである。私が2~3年前に撮影した

チュウヒ (タカの仲間)

中島康夫 (蓮田市)

大空高く、ゆうゆうと滑翔するタカの姿には、いつも魅了されます。チュウヒはいつも、冬枯れの草原の上を低く飛ぶ姿きり見せてくれません。冬の寒い朝、沼で鴨を観察していると、前方の草原の上を、翼をVの字に保ち滑空するチュウヒに気がきました。しばらくすると、獲物を見つけたらしく、そこに飛びこみ、足の爪でネズミを下げて飛び立ち、別の場所へ移ってしまいました。タカ類が獲物を獲る場面にはそんなに、そうぐうするわけ

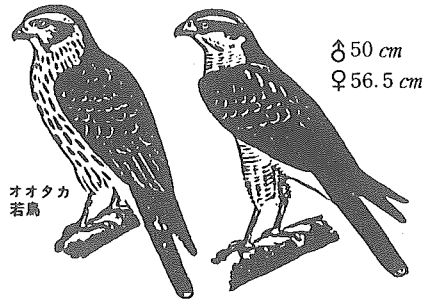


ではありませんが、一度でも見たら、病みつきになるぐらい、魅力のあるものです。(胸がドキドキします)

オオタカ (タカの王様)

山部直喜 (越谷市)

秋冬の青空の見える日を、タカびよりという。まず、オオタカが出現するからだ。幅広で、先が開いた翼と長目の尾というが、何しろ、飛んでいる姿を見るのが普通。なかなか識別は難しい。止まっている姿をじっくり見たのは、渡良瀬遊水池でだ。幼鳥ではあったが、鼻の穴まで見ることができた。今度は、成鳥を望遠鏡の視野いっぱいに見たい。暗青



灰色の上面、尾の四本の黒帯、明りょうな眉斑、どれも美しいにちがいない。



ツミ (最小のタカ)

吉本富美子 (清瀬市)

鳥を子細に観察することが、どれほど楽しく、そして教えられることの多いことか、私にとってそれは、ツミとの出会いでした。また、どうやら私は、ツミの虜になったよう

部始終 — それは、巣を守り、餌を運ぶ懸命な姿、雛がたくましく成長してゆくさま。これらは、テレビではよく見るシーンですが、実際に「なま」で観察できたことはまた、格別のよろこびであり、深い感銘を与えてくれました。どうやら私は、ツミの虜になったようです。

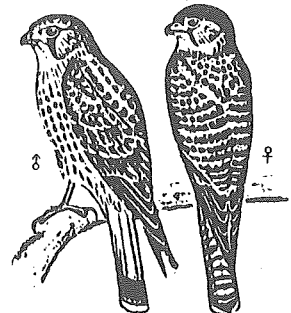
♂27 cm ♀30 cm

チョウゲンボウ (ハヤブサの仲間)

楠見邦博 (浦和市)

この鳥は、私にとって不思議な鳥だ、いつも探鳥会の最後に現われる。浦和三室の探鳥会でも、最後のグループが、杭の上に止っているのを見た。今年9月の谷津干潟の探鳥会でも、「昨年に出たのに……」とリーダーの海老原さんが、鳥合せの時に、残念そうに言った後で、上空をひらひらと飛んで行った。

そこで、この鳥を本当にじっくり見るには、新緑5月の栃木箒川を訪ねて、崖下で一日すごするのがいいようだ。



♂30 cm ♀33 cm

マイフィールド・ガイドを作ませんか

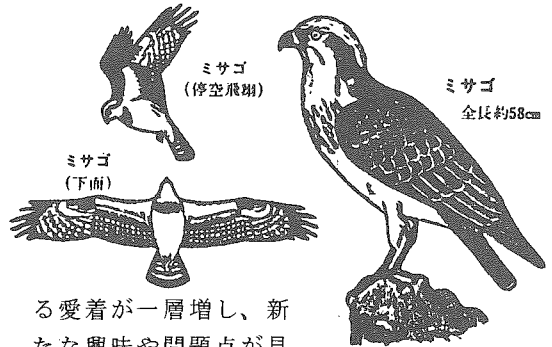
小荷田行男（浦和市）

あなたが定期的に、あるいはしばしば、バードウォッチングを行っている場所、フィールドがあると思います。そこは、異性にひかれるように、あなたをひきつける「何か」を持っているはず。多くの鳥が見られるから、好きな鳥に会えるから、鳥の生態が観察できるから、めずらしい鳥に会えるから、景色が好きだから、花がきれいに咲いているから——など、あなたをひきつける「何か」があるからでしょう。その「何か」を見つけながら、あなた自身のフィールドの案内、マイフィールド・ガイドを作ってみませんか。

マイフィールド・ガイドの書き方は、様々です。エッセイとして、旅のガイドブックのように、イラストマップを中心に、写真集として、あるいは論文、報告集として、あなたの特技を生かして、あなたの好きな形でまとめたいかがでしょうか。

マイフィールド・ガイドには、フィールドの位置、交通機関をはじめ、地形、植生、気候など、自然の基本的な構成を描き、次に、あなたが観察した鳥やけもの、昆虫、花や実など、季節の移り変わりを追って、書いていったらいかがでしょうか。

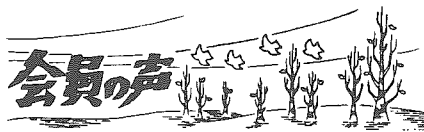
マイフィールド・ガイドを作るには、あなたのフィールドノートに記録されているデータだけでは足りないことがあると思います。そのときは、フィールドへ出かけて、さらに観察を続けたり、ときには、いろいろな本を調べなければならないかも知れません。このようにして、マイフィールド・ガイドを作っていくうちに、あなたは、フィールドに対す



る愛着が一層増し、新たな興味や問題点が見えてくるでしょう。

永年のフィールドとあなた自身とのかかわりあい、マイフィールド・ガイドとしてまとめ、あなたの鳥仲間配られたらいかがでしょうか——。マイフィールド・ガイドは、あなたとフィールドとの新たな飛躍を約束してくれます。

残念ながらまだ、フィールドのない人は、フィールドを見つけて、マイフィールド・ガイドを作るように、観察をはじめたいかがでしょうか。



今年、会員になったのですが、探鳥会には5～6年、参加しています。大変楽しい催しばかりで、あきずにいつも観察しています。もっともっと珍しい、多くの鳥を見たいです。

大谷中1年・長田朱美（大宮市）

地元の多福寺周辺が最近、特に荒れてきて

いる。サンコウチョウ、アオゲラ、キクイタダキ、トラツグミ（一度は最低、アオバズク、ハイタカも見た）などが見られる所で、三芳町に働きかけて、保護してほしい。

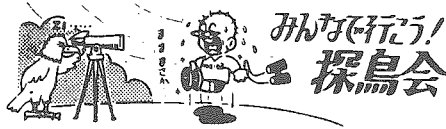
長谷川重夫（上福岡市）

会員になって、1年ぐらいいになりますが、仕事の関係で、まだ1回も探鳥会に出席できず、申しわけありません。来年からは、月1回でも出席するようにいたしますので、よろしく願いいたします。

大澤武男（岩槻市）

探鳥情報

- イカル ◇8月16日、三峰神社で10羽(丸山政弘)。
- ショウドウツバメ ◇8月28日、熊谷市で約600羽(鈴木忠雄)。◇9月17日、行田市齊条で2,000羽以上(飯野辰男)。
- コヨシキリ ◇8月24日、北本市の北本団地遊水池で2羽(場谷内ルミ子)。◇9月23日、桶川市の江川流域で5羽(長野博行)。
- センダイムシクイ ◇9月3日、熊谷市内で保護、元気になって放鳥(今井明巨)。
- コムクドリ ◇9月4日~21日、北本市の北本団地内の江川で5羽(場谷内ルミ子)。◇9月7日、浦和市の大谷口中学校付近の電線で♀1羽(近藤 崇)。◇9月15日、熊谷市の大麻生で3羽(今井明巨)。
- アジサシ ◇9月7日、越谷市の古利根川で4羽(山部直喜)。◇9月13日、戸田市内で保護、手当ての後、9月17日放鳥(発田美代子)。◇9月15日、熊谷市の河原松山で2羽(堀越照雄)。
- マガモ ◇9月8日、大宮市の深作調整池で3羽(中島康夫)。
- オナガガモ ◇9月8日、浦和市大谷口の遊水池で2羽(近藤 崇)。
- オオソリハシギ ◇9月9日、幸手町の中川で1羽(秋間利夫)。
- ウズラシギ ◇9月9日、幸手町の中川で1羽(秋間利夫)。◇9月28日、浦和市の秋ヶ瀬で2羽(石井 智)。◇9月29日、吉川町の水田で1羽(山部直喜)。
- ユリカモメ ◇9月10日、川口市の荒川で2羽(海老原美夫)。
- ツツドリ ◇9月15日、浦和市の秋ヶ瀬で赤色型、普通型各1羽(福井 亘ほか)。
- シマアジ ◇9月15日、浦和市の芝川で1羽(探鳥会参加者)。
- ケリ ◇9月16日、浦和市の秋ヶ瀬で3羽(藤原寛治、森本國夫)。
- ヘラシギ ◇9月16日、渡良瀬遊水池で1羽(中島康夫ほか2名)。
- ホウロクシギ ◇9月16日、大宮市の荒川河川敷で4羽(藤原寛治、森本國夫)。
- オオタカ ◇9月16日、桶川市の江川流域で1羽(松井昭吾ほか4名)。
- ノビタキ ◇9月16日、浦和市の秋ヶ瀬で1羽(探鳥会参加者)。◇9月21日、桶川市の荒川河川敷で3羽(長野博行)。
- オグロシギ ◇9月20日、幸手町の中川で1羽(秋間利夫)。
- ノスリ ◇9月22日、浦和市の田島中学校付近で1羽(田島中バードウォッチング部)。
- サシバ ◇9月23日、寄居町風布で30羽以上(飯野辰男)。◇9月26日、浦和市道祖土で1羽(国益 勝)。◇9月30日、寄居町の鐘撞堂山で34羽(石井生高)。
- シラコバト ◇9月25日、羽生市の六本木で8羽(岡安行雄)。
- コサメビタキ ◇9月26日、寄居町の鐘撞堂山で4羽(石井生高)。
- サメビタキ ◇9月26日、寄居町の鐘撞堂山で4羽(石井生高)。
- エゾビタキ ◇9月27日、浦和市の秋ヶ瀬ビクニックの森で2羽(石井 智)。◇同日、寄居町の鐘撞堂山で2羽(石井生高)。◇10月1日、大宮市日進町で2羽(森本國夫)。
- アメリカウズラシギ ◇9月28日、浦和市の秋ヶ瀬で1羽(石井 智)。
- イソヒヨドリ ◇9月28日、所沢市の公害研修所付近で♀1羽(全国鳥獣保護行政担当者研修の探鳥会で)。
- ツバメチドリ ◇9月30日、吉川町の田んぼで1羽(山部直喜)。
- カシラダカ ◇9月30日、北本市の石戸宿で5羽(場谷内純一・ルミ子)。
- キビタキ ◇9月30日、寄居町の鐘撞堂山で♂1羽(石井生高)。
- ハシビロガモ ◇10月1日、浦和市の白幡沼で1羽(海老原美夫)。
- キンクロハジロ ◇10月1日、川越市の伊佐沼で♂♀各1羽(近藤 崇)。
- ホシガラス ◇10月1日、寄居町の鐘撞堂山で2羽(石井生高)。
- タヒバリ ◇10月3日、浦和市の秋ヶ瀬で20羽(草間和子)。



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば
双眼鏡(なくても大丈夫)などをご用意く
ださい。小雨決行です。

参加費は、一般=100円、会員と中学生以
下=50円

11月3日(日) 寄居町 鉢形城跡と荒川
— 清酒・白扇の醸造元、藤崎總兵衛商店の
ミニサンクチュアリを尋ねる(11月1日~7
日=バードウォッチングウィーク協賛)—

午前9時寄居駅南口集合(大宮7:25発→
熊谷8:09着—秩父鉄道乗換8:28発→寄
居8:56着/東武東上線志木7:38発→川
越7:50→森林公園乗換→寄居8:45着)。
午後1時ごろ解散。カラ類やジョウビタキ
を探し、河原ではカワセミやヤマセミに会
えるかも。(担当=田村照治、石井生高、
小淵健二、村上トシ江)

11月9日(土) 川口市 差間休耕田

午前9時武蔵野線東浦和駅北口集合(武蔵
野線南浦和8:56発→東浦和9:00着)。
午後2時ごろ解散。畦道を歩くと、カシラ
ダカやアオジが飛び出します。上空ではチ
ョウゲンボウが。クイナも探してみよう。
(担当=中島康夫、為貞貞人、楠見邦博、
草間和子)

11月10日(日) 熊谷市 大麻生(定例会)

午前9時30分秩父鉄道大麻生駅前集合(浦
和8:10発→熊谷8:59—秩父鉄道乗換9
:09発→大麻生9:18着/秩父鉄道9:12
発→大麻生9:32着)。午後1時ごろ解散。
ツグミやジョウビタキの冬鳥到着、カワセ
ミともども、皆さんのおいでをお待ちして
います。(担当=鈴木忠雄、堀越照雄、今
井明巨)

**11月17日(日) 浦和市 三室地区(浦和市
立郷土博物館共催・定例会)**

午前8時15分北浦和駅東口(熊谷7:19発
→大宮8:02着—京浜東北線乗換)または
午前9時郷土博物館前に集合。午後1時ご
ろ解散。林のシメやカケスを探し、芝川で
コガモやシギ類を見る。(担当=楠見邦博、

森本國夫、福井恒人) ※参加費無料。

11月17日(日) 桶川市 江川流域

午前9時桶川駅西口(浦和8:27発→桶川
8:47着/熊谷8:20発→桶川8:43着)
または午前9時30分城山公園駐車場。午後
2時ごろ解散。今年もタゲリの群れに会え
るかも。ケリもきっと。(担当=長野博行、
松井昭吾、榎本秀和)

**11月22日(金)夜~24日(日) 伊豆沼探鳥
ツアー** ※10月号(第17号)参照。

11月24日(日) 富士見市 柳瀬川

午前9時東武東上線柳瀬川駅前集合(武蔵
野線南浦和8:24発→北朝霞8:35着(乗
換)東武東上線朝霞台8:46発→柳瀬川8
:57着/東上線川越8:43発→柳瀬川8:
57着)。午後1時ごろ解散。初冬の川沿い
で、タゲリ、ユリカモメ、コガモを見なが
ら、のんびり歩こう。(担当=増田 裕、
藤原寛治)

12月1日(日) 鐘鐘堂山と玉淀湖 午前9
時寄居駅北口集合。オオタカ、ノスリ、ミ
ソサザイ、オシドリ、ヤマセミ。

12月8日(日) 大麻生地区 午前9時30分
大麻生駅前集合。アカゲラ、カモの群れ。

12月15日(日) 三室地区 集合など 11月
17日と同じ。ジョウビタキ、カケス。

**12月22日(日) 浦和市野田 鷺山記念公園
(シラサギ記念博物館共催)** 午前9時鷺
山記念公園集合。タゲリ、ノスリ。

12月23日(月) 大井野鳥公園 午前9時品
川駅港南口集合。セイタカシギ、チュウビ。

1月25日夜行~26日(日) 銚子港ツアー
費用6,000円(バス)。定員25人。カモメ
類、シノリガモ、チシマシギ。

《特報》12月15日(日) 浦和市で室内会(忘
年会)。講演、スライド映写を予定。



9月8日(日) 秩父市 浦山溪谷

△ 55人 〔天気〕 晴時々曇 〔鳥〕 ハチクマ サシバ キジバト アオバト アカショウビン コゲラ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ イカル スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(22種)秩父愛鳥会との共催。アオバトの緑がととてもきれいだった。県支部のリーダーの準備不足と不手際で参加者の皆さんにご迷惑をおかけしました。秩父愛鳥会の皆さん、お世話になりました。

9月14日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水池

△ 31人 〔天気〕 晴 〔鳥〕 ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ トビ オオタカ チョウゲンボウ バン コチドリ ムナグロ トウネン ウズラシギ ハマシギ エリマキシギ キリアイ ツルシギ アカアシシギ アオアシシギ タカブシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ タシギ キジバト ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ セグロセキレイ セッカ カワラヒワ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス(38種)トウネンが、キリアイが、オオソリハシが、...いるわいるわ、干潟一面に。どれから見たらよいか迷うほどで、全員大満足の楽しい一日だった。

9月15日(日) 浦和市 三室地区

△ 40人 〔天気〕 曇時々雨 〔鳥〕 ゴイサギ コサギ カルガモ コガモ シマアジ コジュケイ コチドリ アオアシシギ クサシギ タカブシギ キアシシギ イソシギ タシギ キジバト カッコウ ツツドリ ショウドウツバメ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ヤマガラ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(32種)コガモのそばにちょっと違うカモが1羽。なんと、シマアジであった。

9月15日(日) 本庄市 阪東大橋南詰

△ 52人(県支部12人) 〔天気〕 曇 〔鳥〕 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ ウズラ キジ コチドリ イカルチドリ シロチドリ メダイチドリ トウネン アオアシシギ

クサシギ タカブシギ キアシシギ イソシギ ソリハシシギ ダイシャクシギ ユリカモメ アジサシ コアジサシ キジバト カワセミ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(40種)群馬県支部と合同。昨年は多かったシロチドリやショウドウツバメが少なく、代わりにアジサシとコアジサシが現われた。群馬県支部の皆さん、ありがとうございます。

9月16日(月、振休) 浦和市秋ヶ瀬(大久保農耕地)

△ 17人 〔天気〕 雨 〔鳥〕 ヨシゴイ アマサギ コサギ チョウゲンボウ ヒクイナ コチドリ ムナグロ ケリ トウネン クサシギ タカブシギ イソシギ ホウロクシギ タシギ ジンギSP キジバト ツツドリ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ モズ ノビタキ セッカ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(27種)シギ・チのカウント探鳥会。ケリや、埼玉県では非常に記録が少ないホウロクシギなどが見られた。

9月22日(日) 千葉県習志野市 谷津千湯

△ 50人(県支部20人) 〔天気〕 曇 〔鳥〕 ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ チョウゲンボウ シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイゼン トウネン ウズラシギ ハマシギ コオバシギ オバシギ コアオアシシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ ソリバシシギ オグロシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ ユリカモメ ウミネコ アジサシ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ スズメ ハシボソガラス(41種)千葉県支部と合同。目の前で忙しく餌をあさるトウネンの群れが印象的。千葉県支部の皆さん、ありがとうございます。

9月23日(月、振休) 伊奈町 小室無線山

△ 27人 〔天気〕 雨 〔鳥〕 カルガモ コガモ サシバ コジュケイ キジバト コゲラ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(18種)あいにくの雨で、お目当てのサシバはさっぱり。でも無線山のこんもりした森のすき間をぬって、1羽がさっと、目前をかすめたのが、あまりにも印象的。

連絡帳

会員制度改正案は

9月号(第16号)に同封したはがきによる会員の皆さんの意見を集計したところ、回答率20.7%で、その内、賛成56.4%、意思表示なし・不明など41.9%、反対1.7%でした。この結果を踏まえ、反対意見などについても検討を加えたうえ、10月6日の役員会で、財日本野鳥の会に対し県支部として、次の意見を表明することに決定。「基本的には賛成。A会員、B会員などの言い方をわかりやすく。支部だけの会員が改正時に入会金を払わなくても済むように。ジュニア会員をわかりやすい形で早く制度化すること」(要旨)。その他、家族会員の会費の扱いなど、合計7項目です。ご協力をお願いします。

鳥獣保護行政担当者が初の探鳥会を実施

9月28日、所沢市の環境庁公害研修所で行われた、都道府県と国の鳥獣保護行政担当者の研修会で、野外実習として、初めての探鳥会(場所=所沢航空記念公園)を実施。本部の市田則孝常務理事と、県支部会員8人(下記のとおり)とで担当指導。研修員58人で、合計67人の盛大な探鳥会でした。

石井生高、海老原美夫、草間和子、小荷田行男、田村照治、為貞貞人、藤原寛治、松井昭吾 (50音順、敬称略)

朝早く(6時15分~8時30分)から、皆さんご苦勞様でした。

会員数は

10月20日現在、611人です。

役員会の報告

10月6日(北本市) ①12月行事予定と1月の探鳥ツアーの承認、②会員制度改正案への意見集約、③関東ブロック会議、④狭山市中央児童館自然観察会への協力、⑤埼玉の自然100選、⑥普及部振替口座の開設、⑦12月15日に浦和で室内会(忘年会)予定、⑧その他。次回役員会は、11月3日、寄居町で。

事務局日誌

- 9月1日 北本で総務、普及、編集の各部会。
- 4日 浦和で編集部会。
- 7日 浦和で研究部会。
- 8日 熊谷うちわ祭りパネル展(今井昌彦、海老原)
- 11日 本部の総務、指導、事業の各部との打合せ(西城戸)。
- 15~16日 シギチの調査(研究部)。
- 21日 浦和市瀬ヶ崎で探鳥会指導(福井ほか)。
- 27~29日 自然観察指導員講習会に講師として参加(増田、西城戸)。
- 28日 公害研修所探鳥会での指導。『しらこぼと』発送(事務局)。

編集後記

晩秋の冷気が身にしむ時季。先月号からの紙面刷新、「親しみのある、読んでもらえる支部報」づくりに専心して編集部一同、ガンバっています。皆さんからの助言などを参考に、今後とも一層、充実した紙面にするつもりです。ぜひ、ご意見などを。(長野博行)

題字『しらこぼと』：日本野鳥の会会長・山下静一

(イラスト風見出し・鷹尾正清)

『しらこぼと』

1985年11月号(第18号)

頒価100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦

発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

電話 0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990

印刷所 望月印刷株式会社

(無断転載を禁じます)